



Lesson

13

医療・福祉分野の仕事

興味のある分野の職種や、必要とされる資格をしっかりとチェックしておきましょう。

1 医療・福祉分野の仕事について

医療・福祉分野の仕事は多岐にわたります。乳幼児から高齢者までを対象に、数多くの活躍の場があり、仕事の内容から雇用形態、処遇に至るまで、種類も労働環境も実にさまざまです。

自分に合った職業を選択するためには、自分自身のことをよく理解していることが大切です。なぜ医療や福祉の仕事に就きたいのか、その仕事を通じて将来自分がどうありたいのか、自分自身と向き合ってよく考えることも大切です。そのうえで、それぞれの職業の内容をよく理解し、その職業に就くためにはどういった資格が必要で、どのような就職活動をすればよいのか、早めに情報を収集することが重要となってきます。

一方、最初から希望する仕事や職場を限定しすぎるのも考えものです。広い範囲で情報収集することを心掛けるようにしましょう。仕事の現場を自分で実際に確かめてみることも大切です。医療機関や福祉施設などの関連機関でボランティアやアルバイトの募集がないか、また、募集がなくても職場を見学させてもらえないかなど、日ごろから積極的に行動する心構えが大切だといえるでしょう。

2 医療・福祉分野の仕事に関する情報収集の仕方

医療・福祉関連の仕事に関する主な情報の集め方は下記のとおりです。

希望の就職先を見つけるために、あらゆる手段を活用して必要な情報を入手しましょう。

(1) キャリア支援課

医療機関や福祉施設の求人状況を調べる場合は、キャリア支援課を利用すると効率的です。一般の求人広告では告知されていない求人情報を閲覧できる場合もあります。また、キャリア支援課では施設・事業所からの「求人票」を確認できるほか、卒業生の就職先や過去の求人状況を知ることができます。積極的に足を運び、こまめに情報をチェックしましょう。

(2) 福祉人材センター

全国各地に「福祉人材センター」が設置されています。福祉人材センターでは「求人票」が閲覧できるほか、施設・事業所のパンフレットや福祉系の職場に関するさまざまな資料が用意されています。また、福祉人材センターが主催する「合同求人説明会」で職員募集をする施設・事業所が増えています。一度にたくさんの情報を入手できる絶好の機会ですので、ぜひ参加するようにしましょう。

<福祉人材センターにおけるサービスの一例>

就職斡旋・・・求人票の閲覧、求人施設の紹介。希望求人がある場合は窓口にて申し込む。

相談・助言・・・仕事内容や待遇あるいは資格取得や就職の方法などあらゆる相談に応じている。

その他・・・福祉分野に就職するための説明会や合同求人説明会を開催。

(3) インターネット

施設、医療機関などが独自に運営するサイトや、民間の福祉系求人サイトなど、ネット上にて閲覧が可能な求人情報が数多く存在します。なお、中には、早期に採用試験のエントリー受付を終了してしまうところもあります。早くからの受験準備が必要となります。

Watch!

- 医療・福祉分野の仕事には関連するさまざまな資格がある。事前にしっかり把握しておこう。
- ボランティア活動やアルバイトなどを通じて実際に仕事を体験しておこう。
- キャリア支援課や福祉人材センターをうまく活用しながら就職に関する情報収集をしよう。

3 医療・福祉分野の主な仕事

職種	主な仕事内容	主な活躍の場	関連する資格
看護師	入院中の患者に対して療養上の世話をしたり、医師が行う診察や治療を補助する仕事。病名診断はしないが、患者との接点も多いため、メンタル面でのケアの役目も担っている。	・一般病院 ・社会福祉施設 ・リハビリテーションセンター ・診療所 ・学校 など	・看護師
保健師	地域における住民の健康増進や疾病予防のための健康診断および健康相談を行ったり、家庭における養育・看護・介護についてアドバイスを行う仕事。	・保健所 ・市町村保健センター ・企業の産業保健スタッフ ・学校 など	・保健師
理学療法士	病気やけがなどで、歩く・立つ・座るなどの基本動作ができなくなった患者に対し、運動能力の回復を理学療法に基づき援助する仕事。医師による身体的な治療だけでなく、メンタル面でのケアも視野に入れた援助を行いながら患者の社会復帰を手助けする役目を担っている。	・一般病院 ・社会福祉施設 ・リハビリテーションセンター など	・理学療法士
作業療法士	手芸・園芸・木工・ゲームなどの作業を通じて心身に障害のある人の身体・精神機能の回復を図り、家庭や社会活動への復帰や、社会適応力の向上を援助する仕事。	・一般病院 ・社会福祉施設 ・リハビリテーションセンター など	・作業療法士
言語聴覚士	医師の指示のもと、言語機能障害や、聴覚障害のある人に対して、あらゆる相談に応じながら、機能の回復・維持のための検査・評価・訓練・指導を実施する仕事。	・一般病院 ・社会福祉施設 ・リハビリテーションセンター ・保健所 など	・言語聴覚士
視能訓練士	医師の指示のもと、視力・色覚・眼圧などの視機能に関する検査を行ったり、視機能に障害のある人に対して機能回復のための矯正訓練を実施したりする仕事。	・一般病院 ・社会福祉施設 ・リハビリテーションセンター ・保健所 など	・視能訓練士

Check Point

Check Point 1 → 医療・福祉に関連する記事を読んでおこう

新聞は、業界研究にももちろん、時事問題の試験に役立つ情報が満載。医療・福祉に関する記事をチェックするなど、就職活動に役立ててください。毎日読み続けることで世の中の動きにも敏感になれるよ。

Check Point 2 → さまざまな職種に目を向けよう

最初から一つの職種に絞って活動をはめるのは危険。就職活動の途中で志望職種を変更せざるを得ない場合もあります。優先順位を決めて、少なくとも3つの職種ぐらいに目を向け、研究しておきましょう。

Check Point 3 → 常に自己分析と情報量のチェックを

なかなか志望先が見つからないのは、「自分のやりたいことが明確でないこと」や「職種や仕事内容についての情報不足」が原因。常に自己分析を行うことと、情報のチェックが大切です。情報が足りないと感じたら原点に立ち返って調査・収集を行いましょう。



第2章

企業・職業のことを勉強しよう!

職種	主な仕事内容	主な活躍の場	関連する資格
ソーシャルワーカー ケースワーカー	心身に障害を持つ人、日常生活を営むことに支障がある人に対し、福祉に関連する各種相談に応じ、適切なアドバイスや指導、援助を行う仕事。各種施設や機関、もしくは他分野の専門家と結び付けるコーディネーターとしての役割も担っている。 福祉分野での活躍に加え、医療現場では、医療ソーシャルワーカー（MSW）、精神科ソーシャルワーカー（PSW）としての活躍がある。さらに児童相談所などの行政機関に従事する場合はケースワーカーと称されることがある。	・社会福祉施設 （特別養護老人ホームなど） ・一般病院 など	・社会福祉士 ・精神保健福祉士 ・保健師 ・児童指導員 など
介護支援専門員 （ケアマネージャー）	介護が必要な人などからの相談に応じ、一人ひとりが適した介護サービスを受けることができるよう、総合的な介護サービスプランを立てる仕事。介護保険施設やケアプランを作成する事業所には介護支援専門員の必置義務があり、市町村や各事業者・施設などとの調整や介護サービス計画の作成なども行う。	・社会福祉施設 など	・介護支援専門員 など
生活相談員	福祉サービスを必要としている人たちへの日常生活に関する介助に加え、社会福祉施設における集団生活の組織化と生活指導を行う。各種相談業務や家族・関係機関との連絡を行い、健康管理の役目を担っている。生活保護をはじめとする各種手続き業務も担当している。	・社会福祉施設 など （高齢者、知的障害者、身体障害者、精神障害者、障害児などの施設）	・社会福祉主事 ・社会福祉士 ・介護福祉士 など
介護福祉士 （ケアワーカー）	日常生活を営むのに支障がある高齢者や障害者の、食事や入浴、排泄、移動など、日常生活に関する援助を行うとともに、メンタル面でのケアも行う仕事。同時に、専門知識をもとに、介護する家族や訪問介護員（ホームヘルパー）への指導や相談業務も担っている。	・社会福祉施設 など （特別養護老人ホーム、居宅介護支援センターなど）	・介護福祉士 ・訪問介護員 など
訪問介護員 （ホームヘルパー）	高齢者や身体に障害を持つ人などの住まいを訪問して、日常生活を支援する仕事。掃除・洗濯・買い物などの家事に関する援助のほか、食事・排泄・入浴・着替えなどの身体に関する介護を行う。生活援助と介護の両方を合わせたサービスが行えるスペシャリストとしての役割を担う。	・社会福祉施設 ・在宅介護サービス事業所 ・一般病院 など	・訪問介護員 ・介護福祉士 など



職種	主な仕事内容	主な活躍の場	関連する資格
児童指導員	事情により家族と一緒に暮らすことができない児童福祉施設で生活する18歳未満の子どもの自立支援を行う仕事。学校や家庭との連絡・相談業務も担っている。年齢などの状況に合わせて社会的能力が育つよう、多方面からの支援を行っている。	・児童福祉施設 （児童養護施設、児童デイサービスなど）	・児童指導員 など
児童福祉司	行政機関である児童相談所の職員として、18歳未満の子どもに関する相談に応じる仕事。保護者からの相談にも応じる。心理判定員などと協力して、専門知識や調査に基づいた適切な指導を行う。	・児童相談所	・児童福祉司 など
臨床心理士	悩みを抱えている人に対して、臨床心理学の知識や技術を用いて相談に応じ、解決に導いていく仕事。	・学校（スクールカウンセラー） ・企業内相談室 ・児童相談所 ・一般病院 ・社会福祉施設 ・刑務所 など	・臨床心理士 など
心理相談員	主に社会福祉施設などの職員として、リラクゼーションの指導やストレスに対するケアなど、メンタルヘルスケアに対する指導を行う仕事。	・保健所 ・市町村保健センター ・企業の産業保健スタッフ ・学校 など	・保健師 ・看護師 ・精神保健福祉士 ・臨床心理士 など

4 医療・福祉分野への就職活動

(1) 事前の情報収集が大切

医療・福祉関連の募集では、豊かな人間性に加え、専門的な知識・技術の習得の裏付けとして資格が必要とされることが多いのが特徴です。ただし、福祉系の仕事を中心に、資格そのものがなくても採用される場合もあります。いずれの分野に進むにしても、基礎的な知識や、業界についての理解、またどのような資格や経験が必要であるか、ある程度の情報を収集しておくことが必要です。

(2) 幅広い分野の中から探す

社会全体の高齢化が進むにつれ、医療・福祉分野の仕事は世間の注目を集めるようになってきました。しかし、医療機関や福祉施設での定期的な新卒採用者数は必ずしも多いとはいえません。それでも、この業界への応募者数は増加傾向にあります。就職活動を始める前から専門職志向を持ち、理想的な将来像を描くのも間違いではありませんが、最初のうちは、なるべく多くの仕事について調べ、さまざまな職場を見ながら就職活動を進めていきましょう。思いがけない場所で、自分の適性に合った仕事と巡り合えるかもしれません。

(3) 選考では面接を重要視

医療・福祉系とはいえ、面接に加え場合によっては筆記試験や論作文がある、といった点では一般企業の選考となんら変わりはありません。ただし、医療・福祉系職種の特徴として、対人関係を上手に築く能力を強く求められることから、より面接が重要視される傾向にあるといえます。「仕事に対する熱意と意欲」「資格や技能」だけでなく、「医療・福祉に対してどのような考え方をしているのか」「社会人としての一般常識」など、人物・適性など総合的な観点から評価がされます。